

環境 DNA 技術を用いた魚類の網羅的モニタリング調査の検討

環境科学課 八見裕樹・有本圭佑・小林斎哉

第 56 回日本水環境学会年会

本市では、博多湾浅海域のアマモ場において、地引網を用いた捕獲による魚類の生息状況調査を行っている。今回、捕獲調査と環境 DNA メタバーコーディング法による調査（以下、環境 DNA 調査）を同時に行い、捕獲調査で確認された魚種と環境 DNA 調査で検出された魚種の比較を行った。

能古島では環境 DNA 調査での検出数が捕獲調査での出現数よりも多く、志賀島では環境 DNA 調査での検出数が出現数よりも少なく、能古島とは異なる傾向であった。一致率（捕獲調査の確認種に対する環境 DNA 調査の検出種の比率）は、能古島で 0～64%、志賀島で 0～29%であり、河川調査で報告されている一致率よりも低かった。この要因として、海域は潮流や風等の影響により、河川よりも移流や拡散が広範囲であることが考えられる。また、採水後に希薄な環境 DNA が分解していること等も考えられた。